

【バルセロナ志子田徹】スペイン東部カタルーニャ自治州は、9日にスペインからの分離・独立の是非を問う非公式の住民投票を行う。スペイン政府の激しい反発で憲法裁判所が投票中止を命令したため、自治州側は当初の正式な住民投票は断念しつつも、投票自体は強行する構えだ。なぜ対立が激しくなっているのか、専門家2人に聞いた。

ロンドン大経済政治学院
ホアン・コスタフォン准
教授（欧州社会政策）

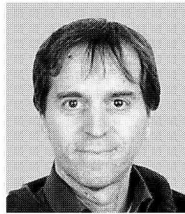


独立に向けて住民投票を行うことは妥当であり、投

あすカタルーニャ「独立投票」

専門家の見方は

バルセロナ自治大 フラ
ンセス・トリラス上級講師
（欧州経済）



独立を問う住民投票は行
うべきではない。いたずら

民意示し問題解決を

票で民意を示すことですが今の問題を解決できない。今のスペイン政府は中央集権的で自治州の権限を弱めようとしている。多くの住民は、カタルーニャ州が巨額の税を中央政府に納め

イン政府は投票自体を防ぐと必死なのだ。今回の非公式な投票では独立派の不満は収まらない。自治州政府は早期に議会を解散して独立の是非を問うのではないか。その場合も独立派が勝ち、独立運動がさらに激しくなるのは不可避だ。

に对立を助長することになる。いま必要なのは、国と地方の関係や地方分権をどうするか、国全体で議論を深めることだ。カタルーニャで独立を求めているのは、実際には少数派が単独与党の政権を率いている英スコットランドと

は、状況が異なる。スペイン政府は各自治州に一定の自治を与えており、カタルーニャ州だけが不公平な扱いを受けているわけではない。確かに中央政府から州への税の配分方法は不透明だが、それは国全体で解決すべき問題だ。

必要なのは分権議論